

町村名	浪江町
町村立学校名	浪江町立浪江にじいろこども園 浪江町立なみえ創成小学校、浪江町立なみえ創成中学校
就学園児・ 児童生徒数	こども園 62 名・小学校 62 名・中学校 26 名（令和 7 年 6 月 1 日 現在）
現状と課題	
<p>1 新たなふるさと“なみえ“への思いの醸成（震災記憶の伝承） ふるさと創造学の学びの充実「“これまで”の理解」・「“今”の分析」・「“これから”への発信」を通して、将来の浪江町（福島）を支える有為な人材の育成に取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人材や素材、環境を活用した教育の推進（企業・施設等訪問、郷土料理実習、職場体験学習、大堀相馬焼の実習）及び F-REI との連携強化による教育活動の展開。 ・新しい価値観を踏まえた教育（ゼロカーボンシティ・水素タウン構想・スマートモビリティ等）を通じた学びにより、誰一人取り残さない多様性と包摂性のある持続可能な社会の実現を目指す教育(SDGs)の推進。 ・「子ども議会」を通して、社会を生き抜く力や具体的な地域の課題解決に主体的に取り組もうとする力を身に付ける主権者教育の推進。 ・防災教育の推進（R7 より立命館大学と連携） <p>2 様々な配慮を要する児童生徒の転入への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の組織的な資質向上による、少人数教育や特別支援教育の向上 ・一人一人の個性に対応した指導～主体的な学びへ ・1人1台タブレット端末の整備 ・小学校・中学校間の相互指導 ・SC、SSW 等の連携による対応 ・小中特別支援学級（知的・情緒）の設置 ・講師（町採用）の配置・学習支援員（町採用）の配置 <p>3 極少人数の環境下での社会性・コミュニケーション力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数学年・校種合同による教育活動の展開 ・架け橋期の教育（保幼小連携） ・哲学対話の実施。各教科の単元構想に位置づけ ・保幼小連携、小中連携による活動 <p>○様々な団体や学校等との多様な交流活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ボランティア団体との連携（含・放課後児童クラブ、週末こどもチャレンジ） ・大学生とのコラボレーション ・ICT 機器活用による複数校との遠隔合同授業の実施 ・他の学校への訪問交流、授業参加 ・英語体験学習（Tokyo Global Gateway 8 月実施） <p>4 子育て家庭の不安感の解消、教育力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こども園「子育てサロン」の定期的な開催・子育て相談 ・保護者間の情報交換 ・茶話会の実施（園・小・中の保護者） <p>5 園児増加に伴う保育環境の整備 ・こども園の拡張工事</p>	

町村名	葛尾村
町村立学校名	葛尾幼稚園、葛尾小学校、葛尾中学校
就学園児・ 児童生徒数	幼稚園 11 名、小学校 15 名、中学校 7 名
現状と課題	
<ul style="list-style-type: none">• 葛尾村の現状• 避難指示解除後 9 年 帰村率 29%• 移住定住促進（お試し住宅） • 学校の状況• 他校との交流• 哲学対話の活用• グローバル人材育成• 英語力の向上• 海外研修（中学生）• 地域連携• 村民運動会• ふれあい給食試食会• 花いっぱい運動	

町村名	双葉町
町村立学校名	ふたば幼稚園、双葉南小学校、双葉北小学校、双葉中学校
就学園児・ 児童生徒数	園児 2 名、南北小学校児童 1 6 名、双葉中学生徒 1 4 名、合計 3 2 名
現状と課題	
<ul style="list-style-type: none"> • 令和 5 年度 双葉町学校設置基本構想策定 • 目指す学び 「共育」「地域」「世界」「復興」 • 目指す学校 「わたしの学校」「みんなの学校」「つながる学校」「そなえる学校」 • 【認定こども園、義務教育学校、学童保育】 • 令和 6 年度 双葉町新学校施設整備基本計画策定 • ※令和 7 年 3 月 5 日 双葉町総合教育会議にて決定。 • 開校時期；令和 1 0 年 4 月 旧双葉中学校敷地を利用 • 〈カリキュラムの方向性〉 • 双葉町が目指す国際人の育成に向けて • 1) グローバル・シチズンシップ • 2) 幼少期からの外国語（英語）活動 • 3) 世界につながる異文化体験 • 令和 7 年度 基本設計・実施設計の構築 →施工業者選定 • こども園、学童、設置準備及びカリキュラム検討、開園・開校準備委員会発足 • 既存の町立幼稚園・小中学校の閉園・閉校準備 	

町村名	大熊町
町村立学校名	認定こども園 義務教育学校 大熊町立 学び舎 ゆめの森
就学園児・ 児童生徒数	認定こども園 36 名 義務教育学校 56 名（前期 43 名 後期 13 名）
現状と課題	
<p>1 帰還者・移住者の定住促進に繋げるために、居住環境整備と魅力的な教育活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 体験入園・入学→グリーン留学の開催 ② 町生活支援課、まちづくり公社と連携したお試し住宅による居住体験との連携 ③ 民間業者参入による住宅整備の促進 ④ 双葉郡教育復興ビジョンに基づいた、学習者中心の魅力的な教育課程の展開と充実 <p>2 地域と共にある学校運営と地域で学校を支える仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ① コミュニティースクール制度→R7 より導入 ② 民間組織（一般社団法人「ゆめネットワーク」）と連携した地域学校協働本部事業の展開 <p>3 磐梯町との連携協定による教育イノベーションの推進</p>	

町村名	富岡町
町村立学校名	富岡町立富岡小学校 富岡中学校
就学園児・ 児童生徒数	にこにここども園：61名 小学校：77名 中学校：22名
現状と課題	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 園児・児童・生徒数は増加傾向 (0歳児の入園の拡大、一時預かりの年齢範囲の拡大を検討中) ・ 特色ある教育活動の継続推進 (PinS プロジェクト、EIP9 プロジェクト等) ・ 町内各施設の効果的活用：地域学習・自然観察 (アーカイブ・ミュージアム、リプルン、学びの森等) ・ 放課後児童クラブによる保護者が安心して働ける環境づくりの推進 (放課後子ども教室登録人数：46名) ・ 小中学校の学習支援 (中学校：夏季・冬季期間の高校受験対策)、小学校(夏季休業中の水泳指導) ・ 地域学校協働活動の充実 (生涯学習課職員が担当、町各課との連携、地域交流カフェの定期開催) ・ 保護者間のつながりの場と機会の確保 (「学校を応援する会」を発足、地域交流カフェへの参加) 	

町村名	川内村
町村立学校名	川内村立川内小中学園
就学園児・ 児童生徒数	かわうち保育園 園児 27名 川内小中学園 前期課程 49名 後期課程 22名 合計98名
現状と課題	
<p>現状</p> <p>① 川内村人口 2208人（6月1日現在） 村内生活者 1852人 内65才以上 966人 高齢化率 52.2%</p> <p>② 義務教育学校5年目 敷地内に幼保連携型保育園「かわうち保育園」併設 ・異学年交流（運動会、集会等）、縦割り活動（委員会）、ランチルームでの合同給食 ・後期課程教員による前期課程への乗り入れ授業実施・・・義務教育のよさを活かす （書写1～3年、算数3,5,6年、社会6年、音楽3～6年、家庭5,6年、体育1～6年）</p> <p>③ 5年生12名「北の大地交流学校」9月24日～27日北海道士別市訪問 6・7年生10名「復興子ども教室」8月7日～10日長崎市訪問 グローバル人材育成「ブリティッシュヒルズ研修」後期課程生徒15名6月28日</p> <p>④ 英語検定 年1回5年生以上、漢字検定 年2回全学年の検定料を補助 英語検定 R6年度 準2級2名、3級3名、3年前は準1級合格者も 漢字検定 R6年度 準2級2名、3級3名、3年前は2級合格者も</p> <p>⑤ 川内小中学園内で「放課後児童クラブ」「放課後子ども教室」を合わせた「放課後こども総合プラン事業」を実施 川内小中学園内で村営の学習塾「興学塾」と「ピアノ教室」を実施</p> <p>⑥ 川内小中学園内で子ども食堂「ミラデザdiningハピもぐ」開始（年3回予定）</p> <p>⑦ 移住・定住促進のため保育園留学開始【過疎地域持続的発展支援交付金】</p> <p>⑧ 田村市の保育園で病児・病後児保育施設広域利用事業 開始【かわうち保育園】</p> <p>⑨ ファミリーサポートセンター事業「ファミサポかわうち」開始【社会福祉協議会】</p> <p>⑩ 地域文化伝承教室「コミュニティハウスにじいろ」利用者 大幅増加 ※3つの機能 ○地域文化伝承教室 ○コミュニティースペース ○公民館的機能 （R3 1185人、R4 2143人 R5 2388人 R6 3460人）</p> <p>課題</p> <p>① 児童生徒数の減少→複式学級であるが復興推進加配教員（教員3名、養護1名、栄養1名）により単式できめ細かな指導</p> <p>② 複雑な家庭環境や支援を要する児童生徒の増加→支援員，SC，SSW</p> <p>③ 今後も継続的な教職員加配措置、SC，SSWの配置</p>	

町村名	楡葉町
町村立学校名	楡葉町立あおぞらこども園 楡葉町立楡葉小学校 楡葉町立楡葉中学校
就学園児・ 児童生徒数	園児数：109 名、児童数 172 名、生徒数 70 名 計 351 名
現状と課題	
<p><町の現状></p> <p>住民基本台帳人口：6,394 人（令和 7 年 4 月末） 町内居住人口：4,480 人（約 70.1%）</p> <ul style="list-style-type: none"> • 町の政策の柱として <ul style="list-style-type: none"> 「魅力ある教育」：個に応じたきめ細かな指導・支援 「農業の再生」：6 次化商品の開発と販売促進（さつまいも、ゆず等） 「スポーツの振興」：楡葉町総合運動公園と J ヴィレッジを核としたスポーツ推進と交流人口の拡大 • こども園、小学校、中学校 <ul style="list-style-type: none"> 「こども課」：出産前から成人までの子育て世帯への継続観察と支援、情報の共有 楡葉町こども計画策定 「幼少中連携」：発達段階に応じた一貫した見通しのある教育の推進 楡葉町がめざす英語教育の基本プランを作成 県立ふたば支援学校との連携「楡葉で共に学び共に生きる教育」 支援体制の構築、相互研修などを通じた教職員の資質向上 生徒の卒業後の進路開拓・地元企業の理解 「中学校」：JFA アカデミー福島女子の帰還、生活文化や地域理解、将来の目標等に相乗効果 「地域学校協働」 <ul style="list-style-type: none"> 「こども教室」：体験活動を重視した放課後学習、ネイチャーサタデー 「学校運営協議会」：学校・地域・家庭の 3 者が教育環境の充実を協議 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> • こども園園児（0 歳児）の増加 → 保育士、支援員の確保 • 企業誘致に伴う外国籍家族の増加 → 生活習慣等の支援、行政区活動への参加 • 支援を要する家庭や園児・児童・生徒の増加 → 支援員、加配教員、SC、SSW → 療育機関への接続、保護者理解 	

町村名	広野町
町村立学校名	広野こども園、広野小学校、広野中学校
就学園児・ 児童生徒数	広野こども園 92 名、広野小学校 124 名、広野中学校 115 名
現状と課題	
<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> • 居住率 91.5% [町民居住者 4,171 / 住基人口 4,557 人] • 園児・児童生徒の就学率 こども園 74.2%、小学校 79.0%、中学校 79.3% (含ふたば未来学園中学校では 89%) また、JFA アカデミー福島男子 52 名 (1 年 18, 2 年 18, 3 年 16) 在籍 • 第三次広野町教育ビジョン (子どもたちがのびのびと育ち未来を切り拓く力を育む教育) の展開 (2025~2029 年度) <ul style="list-style-type: none"> I 確かな学力・豊かな心を育成する学校教育の推進 こども園・小学校・中学校合同の授業研究会の開催、デジタルツールを活用した探究学習やオンライン授業の実践、令和 5 年度から司書の配置・図書システムを導入令和 6 年度時点で小学校図書数 11,133 冊 (学校図書館図書標準以上)・中学校図書数 6,040 冊 (令和 8 年度に図書標準クリア)、令和 6 年度から広野町読書推薦文コンクールを開催 II 地域と学校が協働する学びの推進 広野町地域学習資料の活用と探究活動によるふるさと創造学の充実、地場産物 75.7% を利用した給食の提供と食育の推進、地域と一体となり学校づくりを進めるコミュニティースクールの実践 (令和 5 年度より) III グローバル教育の推進 こども園、小学校、中学校での ALT の活用、小学校 5・6 学年と中学校 1・2 学年でのブリティッシュヒルズ異文化交流体験活動の実施 (令和 6 年度から連続しての 4 年間)、中学生と東日本国際大学留学生との交流を図るグローバルデイの実施 IV 学びのセーフティネットの推進 こども園、小・中学校が連携しての特別支援教育の推進、地域支援センター等との連携による特別な支援を要する子どもとその家族に対する指導支援及び就学指導支援体制の充実等 <p>課題</p> <p>広野町教育環境グランドデザイン (令和 4 年度から) に基づく教育環境の整備計画により、広野小学校大規模改修工事及び共同調理場・給食センター建て替え工事進行中、築 55 年経過の中学校の複合施設化による建替え計画進行中、小学校及び中学校の教育環境整備事業の 2030 年度完成を目指す上での財源確保が課題。</p>	